



○ 草の根パートナー型

平成19年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ラオス
2. 事業名	ラオスにおける車椅子サービスの質の向上及び現地への事業運営移管
3. 事業の背景と必要性	総人口の約8%（48万人）が障害を持つと言われるラオスでは、障害者分野における福祉サービスが極めて限られている。車椅子などの移動補助器具も例外ではない。ラオス全土における障害者の社会参加や生活の自立のためには、日常活動や生活環境に合った車椅子の開発・普及と修理体制の確立が急務となっている。
4. 事業の目的	カウンターパート機関であるNRCが、査定から修理のサービスの一連を独自で運営管理できるようになる。
5. 対象地域	ラオス人民民主共和国の首都ビエンチャン及び地方全県
6. 受益者層	全ての障害者
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査定：当会の理学療法士による査定指導を強化し、特に重度の障害を負った子どもへの個別の車椅子サービスを充実させる。 2. 製造：これまでのスタンダード型車椅子に加え（主に室内仕様）、環境に適した悪路用車椅子を開発し、製造工程を確立する。 3. 配布：ラオス北部6県を車椅子配布の新規対象県として追加し、ラオス全県におけるPRCを通じた車椅子の配布工程を確立する。 4. 修理+調整：首都及び地方全県において車椅子の修理、調整及びアフターケアの体制が確立される。 5. 車椅子サービス全般における運営管理の移管：NRC、PRCでの運営管理体制が確立される。 6. 啓発活動：市民へ障害者の社会参加についての啓発が推し進められる。
8. 実施期間	2008年6月～2011年5月（3年）
9. 事業費	41,661千円（予定）
10. 事業の実施体制	国立リハビリテーションセンターにてラオス駐在代表/プロジェクトマネージャーを中心にラオス政府職員らと事業を行う。東京事務局が常に状況把握に努め、必要に応じて指示及び支援を行う。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 難民を助ける会
2. 活動内容	政治・宗教・思想に中立な立場で活動する国際NGO。1979年に設立され、現在は緊急支援、障害者自立支援、地雷対策を中心にマラリア、エイズ対策等にも取り組んでいる。

略称

NRC : National Rehabilitation Center 国立リハビリテーションセンター
 PRC : Provincial Rehabilitation Center 県リハビリテーションセンター